

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

「どんべえ」は「私」が生後三、四か月のころから育てているメスのヒグマである。あるとき、「私」のポケットの中に入つたおやつを探そうとした「どんべえ」は、初めて攻撃をしかけてきた。後足で立ち、肩を怒らせた「どんべえ」は、明らかに敵意をもつて「私」に反抗してきたのだつた。

(畠
正憲
「対決」による)

(畠

正憲

「対決」による)

(畠

正憲

「対決

による)

一 線部①「どんべえは」は、どこにかかりますか。最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 のどの奥から 2 クハ、クハ、と聞こえる 3 攻撃音を 4 出した

二 線部②「手塩にかけて」の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 かなりの大金を支払っているさま
2 自分で世話をして大切にするさま
3 とても冷たい様子で接するさま
4 たくさん人の協力を得るさま

三 線部③「今、この瞬間を最高に生きてやれ」について、次のようにまとめました。（ ）に入る適切な言葉を、文章中から、それぞれ指定された文字数で抜き出しなさい。

- もはや自分の（ア 三字）に対するこだわりは消え、ただひたすらに「どんべえ」と（イ二字）しなければならないという思いに至った、ということを表している。

四 線部④「何かに制せられ」とありますが、「私」は「どんべえ」を制したものは何だったと考えていきましたか。本文中から十字で抜き出しなさい。

五 文章中の 線部I～IIIのカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直し、楷書でていねいに書きなさい。

- I アびせられ II 逆立て III チヨウテンに達して

——線部⑤「双の目が赤く燃えるようだつた。」について、各問に答えなさい。

- (1) ここで用いられている表現の技法の名称を書きなさい。
- (2) また、(1)と同じ表現の技法が用いられているものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 線部Ⓐ 「ライオンみたいにほえた。」

2 線部Ⓑ 「私は踏みこんだ。無言で、ひとみに力をこめ。」

3 線部Ⓒ 「初冬の空にいわし雲がういていた。」

4 線部Ⓓ 「きつときつとかきいだくのであつた。」

七 ——線部⑥「私は目を開けたくなかった。」という表現について、あるクラスで次のような話し合いを行いました。次の

——線部の（ ）について、文章中の言葉を使って、解答欄に合うように書きなさい。

坂口 どうして「私」は目を開けたくなかったのかな。

平野 自分に攻撃をしてきた「どんべえ」を許せなかつたのかもしれないね。

永瀬 そうではないと思うよ。なぜなら、「どんべえ」が（ ）をしていることに対して、

「私」は（ ）からね。

坂口 なるほど。どうも怒っていたわけではなさそうだね。

永瀬 「私」は、ほつとした気持ちでねこんでいたんだと思う。

坂口 そうだね。風や自然の音を感じながら、たくさん感情を味わっていたのではないかな。他にも考えられる理由はないかな。

平野 本文に「子別れの儀式」とあるから、「どんべえ」の成長をじつとかみしめていたのかもしれないね。